

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	13-092	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Methamphetamine and other substance use trends among street-recruited men who have sex with men, from 2008 to 2011. 2008～2011年にかけての男娼の間に広がっているメタフェタミンと他の薬物使用		
執筆者		
Reback CJ, Fletcher JB, Shoptaw S, Grella CE.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2013 Nov 1;133(1):262-5.doi: 10.1016/j.drugalcdep.2013.06.007.		
キーワード		PMID
メタフェタミン、薬物、男娼		23890490
要 旨		
目的： 特に薬物乱用の影響を受けている集団における薬物乱用の傾向についての調査は重要である。男娼 (MSM) の集団においては、米国の他の集団と比較してもメタフェタミンと他の薬物の使用が多い。このような薬物使用は多大なる健康への影響と関連しているだろう。		
方法： 2008年1月1日から2011年12月31日の間に5,599人の薬物乱用を行っている路上売春の男娼から社会人口統計的情報や最近の薬物乱用についての自己申告のデータを収集するために啓発プログラムを実施した。データは6か月ごとに集計し時系列で調査した。		
結果： 対象者の平均年齢は33歳 (SD=8歳) であった。白人47%とヒスパニック32%であった。自己申告のHIV抗体陽性率は13.4%であった。アルコール飲酒者は91～93%、マリファナ使用者は36～46%、メタフェタミン使用者は23～27%であった。亜硝酸アミル(セックスドラッグの一種、本邦では違法薬物)使用率は最大14%、メチレンジオキシメタンフェタミンの使用率は最大12%、パウダーコカインの使用率は最大8%、クラックコカインの使用率4%はアルコール飲酒者・マリファナ使用・メタフェタミン使用よりは低いもののアメリカの一般住民によりは高率であった。		
結論： メタフェタミンと他の薬物がMSMではよく使われていた。今回の結果からこのようなハイリスクグループに対する継続的な薬物使用に対する介入が非常に必要であることが示唆された。		